

Noetra：国産フィジカルAIの夜明けと2031年へのロードマップ

2031年に向けた技術開発ロードマップ



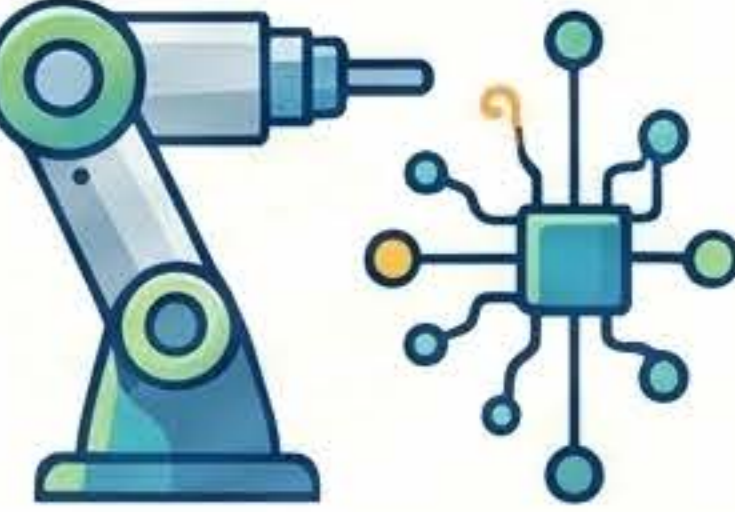
長期：フィジカルAIの社会実装（～2031年）
製造・物流・医療などの現場で「実世界ネイティブ」
に動作するAIを国内提供

中期：マルチモーダル統合
画像・動画・音声に加え、センサーデータ
や物理特性など実空間情報を統合

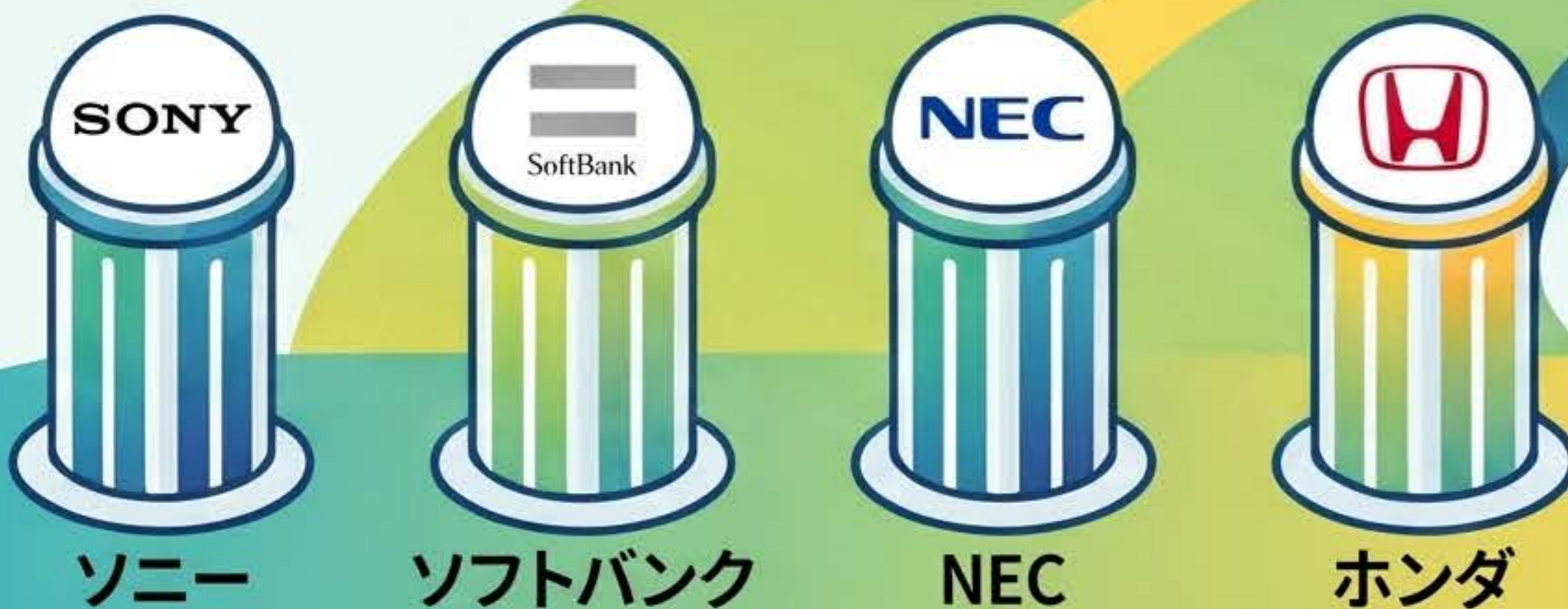
短期：基盤能力の確立（2026年～）
高度な日本語理解、論理推論、指示
遂行能力を持つモデルを構築



プレイヤー別 主な強みとモダリティ

Noetra	Google / NVIDIA	Physical Intelligence
 国内製造	 総合的な計算資源・シミュレーション 視覚・言語・空間構論・行動	 汎用ロボット制御の先行知見 Vision-Language-Action
データ主権・国内産業現場との密着 物理特性・実空間情報・日本語		

強固な国内連携と官民一体の推進体制



4社の主要出資企業と政府予算
ソニー、ソフトバンク、NEC、ホンダが参画し、
NEDO事業として約3,873億円の予算を計上

産総研 (AIST) との「二層構造」連携

Noetraが開発・提供を担い

Noetra
AIST
産総研が理論・アーキテクチャ・
先端研究を支える深い協力関係

既存の国産技術資産の統合
SB IntuitionsやNEC、産総研の先行研究を
束ね、産業実装を加速させるハブ機能を持つ